

職員活動報告

タイトル 「新たな可能性を求めて」	ジョブコーチ Ⅰ	Vol.219	令和3年度 2月
<p>コロナ禍で実習や職場見学も中止や制限が多く、なかなか就職活動も思うようにいかない状況です。今回は自身の障がいと向き合いながら、前向きに自分の人生を切り開こうとするAさんのことを報告いたします。</p> <p>Aさんは学校卒業後、販売業務や工場での食品加工業に就いていました。10年以上働いた工場では、数年前から、質・量ともに業務量が増え、精神的にも肉体的にも不調となり、メンタルクリニックで発達障がいの診断を受けました。診断後も2年間継続して頑張りましたが、昨年退職しました。その後は、事務職での再就労を目指して、自身のスキルアップに努めています。</p> <p>初めて事務の職場体験実習をしたときのことで。</p> <p>実習では、ファイリングや書類整理・新聞記事の保存作業等、今まで経験した事の無かった業務を行い、Aさんには色々なことが見えた数日間でした。思ったより作業がうまくできない事、報連相の難しさ、時間を意識する余裕もないほど忙しい業務があった事などです。</p> <p>接客・作業系の経験はありますが、事務仕事は初めてという事で、思った以上に緊張して疲れた様子でした。短い時間ではありましたが、私には、大変興味深く有意義に取り組めたと感じられました。Aさんは、実際の作業内容はイメージと違っていたし、自分の足りないところにも気づけたと話していました。また、仕事に対する理解も深まり、効率アップの工夫とか、作業ごとの時間配分等の、次に活かせるヒントが得られたのではないかと私には思えました。</p> <p>その後、さらなるスキルアップを目指して、ビジネスマナーを含む3ヶ月間のパソコン講座を受講しました。講座受講中も、面談や電話で色々な報告や相談があり、最初のうちには「コミュニケーションがとれる人がうらやましいです」等の発言もありましたが、何度も相談を重ねるうちに「自分だけじゃない」との思いも強くなっていったようです。この講座を無遅刻・無欠席で終了して、以前に比べて、色々な事に対して、自信が持てるようになった様子です。現在はあらゆる場面で自分から積極的にいくつも質問が出るようになって、本人の変化を感じています。</p> <p>Aさんの支援に携わり、「何事にもチャレンジ精神をもって行動する」という事を再認識しました。面倒くさい事、難しそうなる事を避けて通るか、または先送りする意識を変え、逆に率先して取り組むぐらいでなければならぬと思いました。また、少しでも多くの障がいのある方の就労に貢献できるように、自分にできる事は何かを常に考え、行動するという事を念頭に職務にあたりたいと思います。</p> <p>Aさんの就職活動はまだ続きます。これからも、半年前とは一回り大きくなったAさんの奮闘を応援して、就職につなげたいと思います。</p>			

職員活動報告

タイトル 「先輩からの気づき」	ジョブコーチ Y	Vol.218	令和3年度 1月
<p>初めて福祉に関わり、入職して9カ月が経ちました。少しずつ利用者との面談や実習、支援に関わるようになり、日々学ぶことが多くあります。</p> <p>その中で、Aさんを通じて、諸先輩に教わり気づいたことについてご報告します。</p> <p>Aさんは、仕事を退職し、再就職を目指しセンターに来所されました。</p> <p>面談の中では、Aさんの希望に合わせて、軽作業と清掃のアセスメントを行いました。</p> <p>清掃作業では、手順書を準備していましたが、Aさんは清掃の説明を聞くだけで作業を進め、作業を丁寧に行っていました。作業終了後、先輩が「何か気になりませんか？」と尋ねたところ、Aさんは、手順書の内容を確認せず、作業途中で終わっていたことに気づきました。</p> <p>これが私一人の支援であれば、きっと先回りし「作業途中ですよ」「まだ終わっていませんよ」など声をかけていたと思います。</p> <p>先輩のその姿を見て、私は自分から気づくことができるような支援の大切さを知りました。</p> <p>Aさんの採用後、先輩はAさんの特性を職場の方に伝え、働きやすいように相談しながら、仕事の手順を一緒に考えました。それから、常に振り返りを行い3ヶ月が経ちました。今では自発的に質問も行うことができるようになり、終始笑顔で周りの方とも協力して手伝う場面も見受けられます。作業しているAさんの姿がとても頼もしいです。</p> <p>私は、この支援を通して、教えるのではなく、気づきのきっかけを作ること、そして、共に考えることも大事な支援の1つだということに気づきました。</p> <p>これらをしっかりと行っていく事で、先輩とAさんとの信頼関係がより強くなっているように思えました。</p> <p>これからも、諸先輩を見習い、利用者の方の気持ちに寄り添い、チームワークを大切にしながら、支援に携わっていきたいと思います</p>			

職員活動報告

タイトル 「企業も人・・・」	就労支援相談員 T	Vol.217	令和3年度 12月
<p>就労支援相談員になって、約8カ月。訪問した企業も延べ130件を超えました。この間、新型コロナウイルス感染症の拡大で二度の緊急事態宣言が出て、思うように活動ができない中、感染対策をしながらお会いして下さった企業の担当者の方をはじめ、お忙しいところお時間を頂いた企業の皆様に感謝いたします。</p> <p>さて、私たちの主な活動として、企業の障がい者雇用に係る相談に応じる業務がありますが、これまでに関わった企業の相談内容は多種多様で、改めてその企業や担当者の方のニーズに合ったサービスに結びつけることの難しさを感じています。今回は、そうしたニーズから一部を紹介しながら、私たちの役割などについて考えてみたいと思います。</p> <p>A社は、九州一円で輸送機械等の販売業で、従業員約500人。障害者雇用率未達成のため、総務部門で障がい者3人を雇用しましたが未達成です。現場での業務切り出しのため、相談していますが、現場や経営陣の理解が得られず、担当者が苦慮されています。</p> <p>B社は、市内で不動産業、医療機関等、幅広い業種を展開している企業で、従業員約500人。こちらも障害者雇用率未達成のため、老健施設に加えて、総務部門で発達障がい者を雇用しました。さらに、他部署での雇用を進めようとしていますが、現場の理解が得られない中、ハローワークからの指導もあり、担当者が苦慮していました。</p> <p>C社は、市内で百貨店を営業し、従業員約800人。配送センターだけでなく、売場応援など、様々な部署で雇用しています。ただし、最初からうまく雇用できた訳でなく、いろいろな試行錯誤を経て、現在は雇用率クリアしています。</p> <p>一方、何度アポイントの電話をしても不在、離席、休暇・・・と繋がらない担当者やようやくお会いしたものの、障がい者雇用は検討していない、支援機関が来て煩わしいので来て欲しくないなど、心が折れるような思いをしたことも何度かありました。</p> <p>こうして、企業訪問をしていて、私たちは、企業を相手にしているつもりでも、実は、そこで働く人と向き合っていることに気付かされました。また、業種等は異なっても担当者は同じことで悩んでいるのでは？また、担当者一人が苦慮している姿を見ました。</p> <p>今、私は、企業支援という仕事を通じて、企業における障がい者雇用を進めるとともに、人事担当者の悩みに寄り添いながら一緒に成長できれば、と思っています。</p> <p>そのために、今後は、より個々の企業のニーズに応じたオーダーメイドの意見交換会などの場を提供したり、より多くの企業の担当者の方々とお会いしたりして支援の引き出しを増やすよう努力したいと思っています。</p>			

職員活動報告

タイトル 「就労経験は無駄ではない」	ジョブコーチ H	Vol.216	令和3年度 11月
<p>私は、当センターでジョブコーチとして働き始め11ヶ月が経ちました。先輩職員に色々と教えてもらいながら、支援の役に立てるよう努力しています。</p> <p>私が今回ご紹介したい方は30代の男性Aさん、知的障がいの方です。</p> <p>Aさんの強みは、仕事が丁寧、綺麗、早い、手抜きをしない、作業の効率化を考え提案が出来る所です。逆に弱みはと言うと、人と会話するのが苦手、特に初対面の人には自分から話しかける事が出来ません、慣れると話しかけることは出来ます。他にはメモを取る事が苦手な方なので口頭指示が多くなります。</p> <p>Aさんは特別支援学校卒業後B社で10年、C社で1年務めました。</p> <p>その後色々な体験がしたいと、以前から興味があった特別養護老人ホームで実習しました。コミュニケーション力が必要な仕事だけど大丈夫かな？と思っていましたが、会話は少なくとも笑顔で入居されている方と接し、評判は良好で、介護補助の仕事も問題無く出来ました。施設長からは当社で働いて欲しいと言われたのですが、本人は自分が思っていた仕事と違うと辞退され次の仕事を探す事となりました。</p> <p>その後、体を動かす仕事にも関心があると言う事で、ある企業で2週間の体験実習をしました。ここでもAさんは強みを発揮し、指示された仕事は丁寧、綺麗、覚えが早いと高評価を頂きました。</p> <p>苦手なコミュニケーションも、昼食時には積極的に職員の近くに行き、会話こそ少ないのですがニコニコしながら一緒に食事を取っていました。</p> <p>先日企業から連絡があり「採用決定」となりました。しかも正社員です。</p> <p>決め手は、真面目に実習に取り組んでいる姿と、前職で10年と言う長期間勤めあげられた点だったそうです。</p> <p>AさんはB社で10年間勤め上げたという実績で、「長期間働く事が出来る人」と言う長所を自然と手にしていたのではないのでしょうか。</p> <p>過去での就労経験は、知らないうちに色々なスキルや長所を身に付けています。それがどんな事なのかを一緒に考え、新たな挑戦に挑む事が出来るよう、これからも支援をして行きたいと思います。</p> <p>転職を何度もされている相談者の方がいらっしゃいます。その経験の全てが無駄ではありません。必ず自分の成長に繋がっていると言う事を知って頂きたいと思います。</p>			

職員活動報告

タイトル 「 早く働きたい 」	ジョブコーチ K	Vol.215	令和3年度 10月
--------------------	----------	---------	--------------

入職して約9か月が経ち、次第に担当として関わる方も増えてきました。その中でも印象深い A さんについてご紹介します。

A さんは現在 60 代。10 年ほど前に退職し、母親の介護と家事が中心の生活となり、仕事に就いていない期間が長くなっていました。母親が亡くなり、生活のために働く必要を感じ、A さんはセンターへ来所しました。「一刻も早く就職したい」と A さんはしきりに話すと同時に、仕事に就いていない期間が長く、体力面で不安も感じていました。私たちも早めの就職へつなげるため、清掃のアセスメントを行い、安全に階段を昇り降りできるよう荷物の持ち方を見直しました。そして、体格に合う道具を選べば負担も軽くなることを確かめました。

体験実習を行ったときのことで、1 週間の期間中、終了近くになると立ち止まり「やっぱり体力がないなあ」と口にし、作業も正確さに欠けることがありました。それでも毎朝の開始時刻には遅れず、強い意気込みを持ち続けていました。後日、本人からの話で知ったのですが、2 日目の朝に乗ったバスが遅延したため、途中で乗り換え予定のバスに間に合わず、急いで別の移動手段を探し遅刻せずに済んだそうです。A さんのことを知っているつもりでいた私は、A さんの機転と行動力に驚かされました。

そのすぐ後、A さんの希望に合う求人が見つかりました。体験実習に比べ作業時間が長いので、今回は体力面を中心に確認することにしました。屋外での作業が中心で、気温の上昇がみられる時期でもあるため、水分や塩分の補給についても話し合いました。気温が 30℃ 近くまで上昇した日は負担が大きかったようで、その翌日には食欲が落ちていました。そのため、短い休憩を小まめに取れるよう、1 時間ごとにスマートフォンのアラームを設定し、身につけておくことを決めました。ここでも開始時刻に決して遅れず、私の予想よりも安定して作業に取り組んでいました。その姿勢は採用担当者に伝わり、無事に就職することができました。

職場での A さんの笑顔を見るたびに、働きたい人の気持ちをよく知り、その気持ちを大切にするための段取りや準備が重要だと感じています。

職員活動報告

タイトル 「 思い込み 」	ジョブコーチ K	Vol.214	令和3年度 9月
<p>ジョブコーチの仕事に就いて2年半になろうとしています。今回は特に印象深い A さんについてご紹介します。</p> <p>A さんは2年前の秋にお母さんと一緒にセンターに来所しました。当時40代、実家が営む事業を手伝っていましたが、5年前に廃業され、その後は実家で過ごしていました。お母さんは将来を心配されていましたが、A さんは何しに来たのかよくわからないようでした。お金には困ってないということで、面談当初は働きたくないという気持ちが強いようでした。しかし、面談を続けていく中で車が好きということがわかり、次第に「車を買うためにお金を貯める」という言葉が出るなど将来に向けた新たな目標が見つかりました。</p> <p>A さんは知的障がいがあります。面談中に足を組んだり、テーブルに斜めに座ったり返事がぶっきらぼうだったり、採用してくれる企業があるだろうか心配になりましたが、打ち合わせたことは確実に実行し、やり始めたら途中で気を緩めずやり抜くということがだんだんとわかって来ました。</p> <p>ある公共施設でインターンシップを実施したときのことで、受入れ施設の人達は最初やや不安に感じている様子がありましたが、毎日大きな声で挨拶し、仕事は正確にやり遂げるAさんのことがわかるにつれて頼りにするようになりました。また与えられた仕事が終わったら「他にありませんか」と尋ねたり、本棚のレイアウトのアイデアを出すなど、センターに面談に来ていたときには見られなかった一面が見られ、社会に出ることによって本来の能力が引き出された感じがしました。</p> <p>その後、採用面接を受けるにあたっては、事前に企業に対し A さんの特徴や配慮点などを打ち合わせし受入れ準備をしていただきました。A さんも私たちの心配をよそに周りの支援を得て順調に働き始めました。途中病気になったり、新型コロナの影響で出勤日数が減ったこともありましたが、今では実習生に仕事を指導できるまでになっています。人は第一印象で8割決まると言いますが、A さんの第一印象はあまりよくありませんでした。しかし、A さんは今の働きぶりを通して、私のその思い込みが間違っていたことを教えてくれた気がしています。</p>			

職員活動報告

タイトル「目標に向かって 働き続ける」	コーディネーターS	Vol.213	令和3年度 8月
<p>私が担当している A さんについて報告します。</p> <p>A さんは学校を卒業後一般企業で働いていましたが退職し、支援や配慮のある中で働く障がい者雇用を希望しセンターに来所しました。「これまで学んできたことを活かしたい」と希望職種は一つ。ハローワークの求人検索で職種や通勤できる範囲を限定して探すと希望通りの仕事はなかなか見つかりませんでした。</p> <p>そこで、センター主催の「スキルアップセミナー」への参加を提案しました。セミナーの講座には、一つの商品にどれだけの人や仕事に関わりつながっているかを考える時間があります。ショートケーキだと、パティシエ、販売する人、果物農家、酪農家、小麦農家、製粉所、養鶏所（卵）、それぞれの材料を運搬する人、容器を作る人、売り上げを計算する事務員…。どれもケーキを作るためになくてはならない仕事です。希望職種だけではなく、自分ができることはどんなことか、苦手なことにはどんな工夫ができるだろう、と自分の可能性に気づききっかけになったようでした。</p> <p>セミナー受講後は資格を取得し、希望職種ではないけれど、関連する仕事を目指しました。実習を通して、苦手なことは繰り返し練習したらできることがわかり、面接の練習を何度もしました。努力の結果、無事に就職することができました。スキルアップセミナー受講前は、自信が持てずにいましたが、小さい「できた」という経験を積み重ね少しずつ自信がついてきたようです。</p> <p>1 年が経ち、新年度のスキルアップセミナーの時期になり、受講者の見学先として A さんの企業を訪問することになりました。去年は見学者だった A さんが、今回は先輩として受講者からの質問に答え、実際に働く姿を見てもらいました。働く A さんの姿はいきいき輝いて見え、緊張しながらも堂々と働いている姿は新たな受講者の目標になったようでした。</p> <p>A さんにとって目標ができ苦手なことを含めて自分のことがわかること、経験を重ね自信をつけることが A さんの成長や変化につながったのではないかと思います。</p> <p>A さんの就職前に立てていた目標は達成しましたが、働きながらまた次の目標を立てて前進しています。企業への就職を目標とするだけでなく、その企業で働き続けること、就職後も目標に向かって日々働き続けることで、より素敵な社会人になっていくのだと思います。</p> <p>今後も一人ひとりが目標に向かって進んでいけるよう努めていきます。</p>			

職員活動報告

タイトル 「 コロナ禍における環境の変化 と支援活動 」	就労支援相談員 T	Vol.212	令和3年度 7月
<p>緊急事態宣言が出てから、企業に対して障がい者就労支援を担当する私の日常は、以前と変わってきています。まず、企業担当者との面談をするための訪問が大幅に減りました。新型コロナ感染対策として、企業も県内外への出張をやめたり、部外者の来訪を制限したり、テレワークの推進で在宅勤務が増えたことが理由です。</p> <p>企業訪問をしても、昨年から新型コロナ感染拡大防止のため、オフィスの状況も随分と様変わりをしました。たとえば、訪問時の受付には、手指消毒用アルコールのスプレーと体温計や自動体温測定器を設置しているところもあります。さすがに、PCR 検査の有無や結果まで求めるところは、今のところありません。</p> <p>先日、アポイントを取ることができたある企業を訪問した際に、私 1 人でしたが、10 畳程の広い応接室に案内されました。部屋の窓は、一部開けられて換気の徹底がなされたうえで大きな応接テーブルの両端に担当者と対面して話をしました。これも 3 密を避けるひとつの対策と思います。</p> <p>今回、7月に開催する「企業セミナー」では、講演を事前に録画しWEB 動画配信により参加できるように工夫をしています。WEB 動画配信であれば、会場への移動時間や交通費等コスト削減でき、また、空いた時間を他の業務に充てることができます。移動による身体的負担も軽減されます。</p> <p>セミナーは、すでに 100 名を超える方からの申込がきています。昨年、8月に、新型コロナ感染予防対策を講じ会場開催したセミナーと比較してもかなりの増加です。特に、初参加の企業が例年よりも多く、また市外はもとより県外を越えた応募もあり、広範囲の参加が特徴です。これもコロナ禍の環境変化のひとつと思われます。</p> <p>コロナ禍の今、日常を見直してチャレンジすることが、あらたな可能性を見出す好機になると思います。まだまだ、工夫すること、やれそうなことはあります。このように対面できないことを上手く活用して、コロナ禍の環境の中で工夫した支援活動をしていきたいと思っています。</p>			

職員活動報告

タイトル 「 考え方に合わせて 」	ジョブコーチ Y	Vol.211	令和3年度 6月
<p>毎年、当センターではスキルアップセミナーを開催しています。これから就職活動をはじめの方を対象としたこのセミナーでは、働くとはどういうことか、働いている人の生活がどのようなものか、生活にはお金がどのくらい必要かということなど、働くことをイメージしながら自分自身を見つめることで将来について考えていきます。</p> <p>セミナーの中で、そもそも「働くとは何か」を考えた時に、色々な意見が出ました。例えば、正社員として働くことが「働く」ことだと思ふ、アルバイトやパートも「働く」ことだと思ふ、自宅での家事や子育て・介護は「働く」に当てはまるのだろうか？、お金が発生しないものは「働く」ではないのではないかと、お金が発生しない「働く」もあるのであるのでは？などです。このような意見が出ましたが、それぞれの考え方の違いによるものなので、どれも正しいことだと思いました。参加者の方も、意見交換する中で様々な意見に触れ、考え方が変わったという方もいらっしゃいました。</p> <p>働く動機についても、人それぞれです。生活のため、家族のために働く人、趣味を楽しむために仕事をする人、自分のやりたいことを仕事にしてそれを生きがいとする人など色々な方がいます。</p> <p>様々な考え方や価値観に合わせて世の中も変化してきており、働き方も変化してきています。在宅勤務や短時間勤務、時間を選んで働くなど、自由な選択ができるようにもなっています。多様な選択肢の中から自由な選択ができる＝働きやすい環境を選ぶことができる、のではないかと考えます。</p> <p>色々な方と関わる中で、様々な考え方や価値観に触れることができます。そのどれも間違いではありません。今後も、それぞれの方にとって大切なことを尊重し、無理のないよう、その方に合った選択ができるよう、微力ながらお手伝いできればと思います。</p>			

職員活動報告

タイトル 「就労中の方への支援」	就労支援 コーディネーター U	Vol.210	令和3年度 5月
<p>就労支援センターでは、就職を目指して活動されている方のほか、就職した後の支援も行っています。本人や家族、企業などからご相談があり、当センターが調整に関わらせていただくことも少なくありません。最近私が担当し、印象的だったことを紹介します。</p> <p>知的障がいのあるAさんは、事務職を希望し、専門学校を卒業後、無事に就職することが出来ました。</p> <p>Aさんはこれまでメモを取る習慣がなく、メモを取っても大事なポイントが抜けていたり、メモを見返して活用することや困ったときに自分から相談・質問することが苦手でした。</p> <p>そこで私は、職場の方とも相談し手順書を作成することにしました。初めて障がいのある方を雇用する企業だったこともあり、実際の作業を見せてもらいながら作業の流れが分かるような手順書を一緒に作成しました。今までは、どの工程での大事なポイントだったのか、そもそも何が重要なのか分からなくなっていました。手順書を活用するようになってからは重要なポイントには印をつけたり、追加や変更点はその都度手順書に記入することで、後から見返しても分かるようになったようでした。</p> <p>自分から相談・報告をすることについては、環境に慣れ少しずつできるようになっていましたが、職場の方からは「同じ質問を何度もしている」と新たな課題が伝えられていました。その課題についても、職場の方に声をかける前に、以前質問していないかまず手順書を確認することを意識することで今は、回数が減っているようでした。</p> <p>現在は、職場の方と本人とで相談しながら手順書も修正、変更、追加を繰り返してより分かりやすいように作り直しながら活用しているそうです。支援者は、「この仕事をしてもらうにはどのような工夫が必要か」職場の方や本人と一緒に考え、職場の中で応用していけるように支援していくことが大切だと感じました。</p> <p>今後も、支援者にできることは何かを考えながら支援していきたいと思っています。</p>			

職員活動報告

タイトル 「 あきらめない 」	ジョブコーチ F	Vol.209	令和3年度 4月
<p>この春、待ち望んでいた就職が決まった方の一人、Aさんについて報告します。Aさんは、専門学校卒業し社会に出ましたが、うまくいかない経験を重ね、うつ病や不安障害を発症し、大人になって初めて自分に発達障がいの傾向があることが分かったと言われています。</p> <p>Aさんは、一般就労にて事務職や介護、看護助手の仕事、派遣の仕事をした経験がありますが、なかでも看護助手での経験は心に大きな傷を残しているようでした。仕事が覚えられない、段取りができない、人間関係がうまくいかないことで、先輩たちから強く叱責され、なぜ自分はできないのだろうと自分を責める毎日だったようです。また、派遣で行ったある倉庫では、棚や物品の位置が把握できず戸惑った結果、その仕事の依頼が来なくなったというエピソードも聞きました。</p> <p>Aさんは、落ち着いて対処することができれば様々な作業ができる方でした。発達障がいの特性としてフラッシュバックを起こしやすいことがありますが、Aさんの就職を困難にさせたのは、人間関係や仕事ができているか不安になった時に、以前のつらかった思い出がフラッシュバックすることも一因であるようでした。雇用のための実習を2回行いましたが、教わったことを完璧に覚えていないといけないというプレッシャーと周りのスタッフにどう思われているかという恐怖感で頭がいっぱいになり、就職を辞退することもありました。</p> <p>Aさんに合った仕事はないかと探していたところ、少し時間がかかりましたが、店舗のバックヤードの仕事を自分で見つけて来られました。バックヤードでは、しばしばスタッフが出入りするものの、仕事は一人ですることができ、同じ作業を繰り返し行うので、覚えられないという不安が起こらないものでした。前回の実習では悲痛な表情で毎日不安を訴えていましたが、今回は笑顔で落ち着いて仕事に行けているようです。</p> <p>今回、支援者としてはAさんの負担にならないような程よい距離感を心がけた程度ですが、私はAさんから、職場や職種とのマッチングが大切であること、一旦は困難に思えても、利用者ひとりひとりに合った就労環境があることを信じて支援を続けなければならないことを改めて学びました。新しい職場でもまだ油断はできないのですが、Aさんの不安の兆しを早期に捉え、広がらないうちに対処し、長く働けるように支援をしていきたいと思っています。そして、この就職が、Aさんの成功体験になり、つらい記憶を塗り替えることができたらいいと願っています。</p>			